

滞留水循環冷却で定期報告 累積処理量は7,230 m³達成

東京電力が保安院に

東京電力は六月二十九日、放射性滞留水処理システムの運転状況を原子力安全・保安院に報告した。十七日に本格運転を開始したが、保安院では汚染水の貯蔵・処理状況

今後の見通しについて、週ごとの報告を求めている。今回が初めての報告。同システムは、タービン建屋等に滞留した放射線レベルの高い汚染水を処理し、原子炉への注水に利用するもので、二十八日までの累積処理量は、約七千二百三十立方メートルとなった。

東京電力の初回報告によると、六月二十八日現在、タービン建屋内水位は、最も高い1号機でOP(小名浜湾平均潮位)四千九百六十九mmとなっており、短期的に、移送は各号機建屋内滞留水位がOP四千mmを超えないよう計画し、中期的には建屋内滞留水位の当面の目標をOP三千mmに設定し、処理を計画することとしている。三か月後を見通したシミュレーションでは、原子炉注水量の変更や降雨の影響がないと仮定した場合、OP三千mmまで建屋内滞留水位が低下する時期は、2、3号機で八月上旬以降と見込まれている。

原子力会社の業種や規模等分析

帝国データバンク

帝国データバンクは二十九日、百五十一万社を収録した調査報告書「アイルと、百三十八万社を収録した企業概要データベース(COSMOS)」をもとに、日本国内の原子力発電事業と直接的に関連する企業(事業内容が明確に判明するもの)二千二百五十八社を抽出し、「地域別」「業種別」「規模別」「販売先」などについて分析した。

業種別では、プラントや発電機などを製造する「製造業」が七百七十八社(三四・五%)と最多で、細分類別の業種では「機械器具設置工事業」が二百二十二社(五・四%)で最多だった。主な販売先としては、原発関連企業の約一割に相当する二百五十九社(五%)が「三菱重工」を挙げている。

4号機に作業員六人が立ち入り

東京電力

東京電力は六月二十九日の記者会見で、同日六名が4号機の原子炉建屋五階オペレーティングフロアに立ち入ったことを報告した。作業員の被ばく量は、最大で〇・三二Sv、平均値が〇・二二Svだった。

原子力対策委員長に豊松副社長

電事連

電気事業連合会は六月三日開いた原子力開発対策委員会、委員長に武藤栄・東京電力副社長(現顧問)に代って、豊松秀己・関西電力副社長(当時常務取締役)を選出したことが、明らかにされた。

D/G冷却系水没

保安院公表 東電からの第一報

原子力安全・保安院は六月二十四日、福島第一の東京電力から同院への報告原資料約一万二千枚の状況について、事故発

特定事象発生通報(原子炉施設)	
平成23年 3月 11日 (9時42分)	
通報先: 東京電力株式会社 福島第一原子力発電所 福島第一原子力発電所 福島第一原子力発電所 福島第一原子力発電所	
特定事象の種類	①放射線計測異常発生 ②冷却系異常発生 ③燃料棒異常発生 ④原子炉圧力異常発生 ⑤原子炉温度異常発生 ⑥原子炉水位異常発生 ⑦原子炉圧力異常発生 ⑧原子炉温度異常発生 ⑨原子炉水位異常発生 ⑩原子炉圧力異常発生 ⑪原子炉温度異常発生 ⑫原子炉水位異常発生
特定事象の発生時刻	平成23年 3月 11日 16時 42分 (2.4時間表示)
特定事象の発生場所	福島第一原子力発電所 1号機
特定事象の発生原因	①冷却系異常発生 ②燃料棒異常発生 ③原子炉圧力異常発生 ④原子炉温度異常発生 ⑤原子炉水位異常発生 ⑥原子炉圧力異常発生 ⑦原子炉温度異常発生 ⑧原子炉水位異常発生 ⑨原子炉圧力異常発生 ⑩原子炉温度異常発生 ⑪原子炉水位異常発生 ⑫原子炉圧力異常発生 ⑬原子炉温度異常発生 ⑭原子炉水位異常発生

資料の第一報(画像)は、三月十一日十六時〇〇分、東京電力(株)原子力立地会議室からの「特定事象発生通報(原子炉施設)」で、経済産業大臣、福島県知事、大

熊町長、双葉町長宛で、通報者は吉田昌郎・福島第一原子力発電所所長。内容は、同15時5号機(後に153号機に訂正)が十五時四十二分に「全交流電源喪失」による原子力災害対策特別措置法上の「第10条通報」で、排気筒放射線モニタの指示値は「変化なし」、

「その他」事項で、「地震発生に伴う津波により、D/G(ディーゼル発電機)冷却海水系が水没したため、冷却水がなくなり、D/Gがトリップ(緊急停止)した」と記載されている。

参考情報欄には「15号機・D/G全台使用不能、6号機・6B D/Gのみ運転中」と書き加えられている。

当初11炉心損傷開始22時20分頃 災害本部資料に掲載

【経産省人事】(6月30日付)原子力安全・保安院原子力防災課長(大臣官房付) 松岡建志。(7月1日付)原子力安全・保安院原子力広域課長(大臣官房付) 市村知也。(4日付)大臣官房参事官(電力・ガス事業部) 官(電力・ガス事業部) 官(資源エネルギー庁電力・ガス事業部電力市場整備課長) 山下隆二(資源エネルギー庁電力・ガス事業部電力市場整備課長) 片岡宏一郎。

原子力ワンポイント



日本の放射線・放射能基準

1号機第一原発事故(番外編⑩)

放射線は直接の打撃または活性酸素を生成することによって細胞を壊します。壊された細胞は、修復や細胞の自殺を行います。一方、一部の細胞はガン細胞になります。一方、低線量の放射線により免疫力を高めてガンを治療することも考えられています。

放射線を浴びるとガンになる。カワさん、まず、ガンになる原因の細胞破壊を説明します。放射線を一言で言うと、原子核から飛び出してくるエネルギーですが、大きいエネルギーが細胞に当たると細胞を壊してしまいます。また、エネルギーが小さいと水を分解して活性酸素を作ります。人の体は体重の約70%が

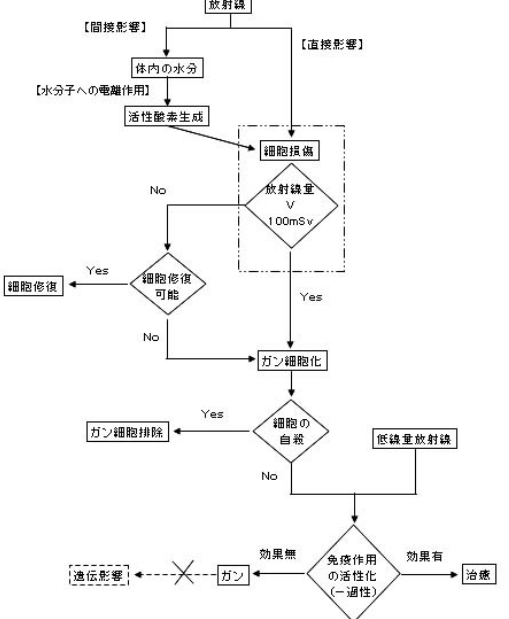
通り直りますが、壊れ方が大きい場合には、不完全な修復となり、機能が変化した細胞になり、無限に増殖を始める細胞があります。これがガン細胞のガン化です。ガン細胞はガン化した細胞はどのようなものか。カワさん、ガン細胞には生き残ったガン細胞を殺す免疫機能が

殺す自然免疫細胞も 身体にはガン細胞を殺す自然免疫細胞も

ガン細胞を殺す免疫機能が

ガン細胞を殺す免疫機能が

ガン細胞を殺す免疫機能が



ガンくん どうして

ガンくん どうして

ガンくん どうして

ガンくん どうして

ガンくん どうして

ガンくん どうして

ガンくん どうして